

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 98  
令和元年

令和元年度 関西大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1  
東京農業大学 地域環境科学部  
造園科学科 庭園文化研究室内  
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)  
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

## 令和元年度 日本庭園学会関西大会開催案内 日本庭園学会関西支部事務局

令和元年度の関西大会は、令和元年11月2日(土)、3日(日)の2日間にわたって、山口県山口市内を会場として行います。1日目の現地検討会では、文化財庭園として保存修理等が行われた最近の事例として常栄寺庭園と常德寺庭園を見学します。

2日目は研究発表会に引き続き、史跡整備が行われた大内氏館跡庭園、国登録文化財山水園庭園または凌雲寺跡の見学を行います。

研究発表会会場となる山口市菜香亭は、長州藩の膳部

職であった齊藤幸兵衛が山口において他県からの来訪者を饗応するための料亭としておよそ50年前に営まれ、外務大臣井上馨によって菜香亭と命名されました。平成16年(2004)年10月に現在地に移築され、山口市を代表する文化施設の一つになっています。

**移動手段調整等の関係上、参加者は下記要領に従って、10月3日(木)までに日本庭園学会 日本庭園学会関西支部事務局(3頁の右側を参照)まで申し込みをお願いします。**

### 記

#### ■日程

令和元年11月2日(土)、3日(日)

#### ■会場

山口市菜香亭会議室

(〒753-0091 山口市天花1-2-7)

#### ■会場への連絡先

TEL : 083-934-3312 FAX : 083-934-3360

E-mail : saikou @ c-able.ne.jp ほか

#### ■山口市菜香亭への地図(同ホームページより転載)



自動車 / 山口駅より約7分(国道9号沿い七尾山トンネル横)

路線バス / 野田学園前バス停下車(徒歩2分)

コミュニティバス / 野田バス停下車(徒歩3分)

JR / 山口駅下車(バス及びタクシー)

## 第1日目【11/2(土)】現地検討会

- 9:40 受付開始 山口市菜香亭  
【JR/山口駅下車(各自路線バスまたはタクシーを利用ください)】
- 10:00 現地検討会事前解説  
解説:佐藤力氏/山口市教育委員会文化財課保護課
- 11:30 各自昼食(弁当仕出しサービスあり:要予約)
- 12:50 山口市菜香亭発  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 13:00 常栄寺庭園 見学開始
- 14:00 常栄寺庭園 見学終了  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 15:00 常徳寺庭園 見学開始
- 16:00 常徳寺庭園 見学終了  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 17:00 JR山口駅または湯田温泉バス停付近、解散
- 17:30 情報交換会(場所未定。湯田温泉街にて)

## 第2日目【11/3(日)】研究発表会

- 会場 山口市菜香亭会議室  
【JR/山口駅下車  
(各自路線バスまたはタクシーを利用ください)】
- 9:00~12:30 研究発表会  
※研究発表の件数により以下の予定が変更になる場合があります。
- 12:30~13:30 各自昼食  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 13:50 大内氏館跡南東庭園・北西庭園 見学開始
- 15:00 大内氏館跡庭園 見学終了  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 15:20 山水園庭園または凌雲寺跡 見学開始
- 16:20 見学終了  
※貸切バスにて移動  
(予定。参加者数によりタクシー移動)
- 17:00 湯田温泉バス停付近またはJR新山口駅、解散



大内氏遺跡・凌雲寺跡



山水園庭園

**【関西大会への申し込み】**

移動手段調整の関係上、参加者は事前に申し込みをお願いいたします。以下の①から④についてハガキ、ファクシミリまたは電子メールにてお願いいたします。

申し込み締め切り:令和元年10月3日(木)23:59(必着)

- ①氏名 ②会員、非会員の別 ③参加プログラム(現地検討会事前解説・現地検討会1日目・情報交換会・研究発表会・現地検討会2日目) ④1日目の弁当予約の有無  
⑤当日に連絡可能な携帯電話番号

**【研究発表への申し込み】**

研究発表会での発表希望者は、下記の要領にしたがって申し込んでください。発表時間は、ひとりあたり20分とし、発表15分、質疑応答5分を予定しています(但し、発表者数によって変更する場合があります)。発表にはPCプロジェクターの使用が可能です。

**◆発表申し込み方法**

発表者氏名・所属・題名・連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」まで送付してください。原則的にはEメールとしますが、郵送もしくはFAXでもかまいません。

電話での問い合わせには応じられませんのでご注意ください。

提出期限:令和元年9月25日(水)必着

電子メールでの送付の場合は、同日23:59まで  
お願いいたします。

**◆発表要旨 執筆要領**

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とするため、ワープロを使用して作成願います。分量は、A4判で6ページ程度とします。プリントアウトまたはPDFファイルを下記の「発表申込先」まで送付または送信してください。1ページあたりの文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じてください(横書き2段組、1段あたり25字40行)。なお、書式は日本庭園学会ホームページからダウンロードが可能です。申し込みと資料提出の締め切り日は厳守してください。

提出期限:令和元年10月14日(月)必着

◆関西大会参加申し込み、研究発表の申込み先・要旨集版下原稿の送付先は下記までお願いします。電話での問い合わせには応じられませんのでご注意願います。質問等もハガキ、ファクシミリまたは電子メールにてお願いいたします。

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局

(担当者:関西支部長 仲 隆裕)

ファクシミリ:075-791-9127

E-mail:naka@kuad.kyoto-art.ac.jp

**2019年庭園学会全国大会 現地検討会レポート**

2019年6月15日(土)に東京都文京区目白台界隈において現地検討会が行われた。検討会のテーマは「目白台界隈の立地と場所性大名庭園から近代庭園への展開」である。

東京メトロ雑司ヶ谷駅に集合し、急な階段や坂道から高低差を感じながら歩き、目白台一丁目遺跡についた。志摩鳥羽藩稲垣家屋敷であった当時と変わらぬ、高台から神田川を俯瞰する眺望で、「屋敷から神田川を眺めることが粋であった」と東京大学の原祐一先生より説明を頂いた。私に日頃

馴染みのある京都の無鄰菴では仰瞰して東山を庭園から眺めていたことを思い出した。

次に和敬塾細川家洋館を訪れた。細川家第16代細川護立侯により建てられた、昭和初期の代表的華族邸宅だ。窓や梁などに船・海を思わせる意匠があり、「魚の間」は網に囚われた魚の気分になれる空間であった。そこは護立侯が親しい人とタバコを吸うための部屋で、床に当時のタバコの焦げ跡が残っていた。また、所々に襲撃対策がされていた。刀を抜けない幅の廊下、窓の鉄格子、隠された逃げ

道など、豪華でゆったりとした時間が流れそうな洋館での暮らしと背中合わせに、命を狙われる危機があったことにドキドキした。

次に訪れたのは蕉雨園だ。明治30年に田中光顕伯爵の自邸として建てられ、大正8年に財界人渡辺治右衛門氏が持ち、昭和7年に講談社初代社長である野間清治が購入した。建築はどっしりとした造りで、庭園は樹木が大木になり、鮮やかで深い緑色が眩しい。現地での解説は当館の方にさせていただき、その説明内容には歴代の管理人さんからの口伝が含まれていた。「講談社社員の仕事の一環で風呂場にて社長のお背中を洗い流す仕事があった」など、お話を記録しておきたい気持ちになった。

午後は小石川後樂園を見学した。寛永6年(1629年)に水戸徳川家頼房が作庭し、二代目光圀の代に完成した。受付前に「今日の庭師仕事」が掲示され、薬剤散布の詳細な内容を明示されていた。来園者には老若男女、幅広い世代がいた。

当日は6月らしく朝から雨だった。コース変更で見学できない箇所もあったが、訪れた庭園は雨の日ならではの景色を見せてくれた。東京は景色の変化が激しい場所だと認識していたが、今回訪れた目白台では、江戸時代からの高低差や土地の区割り、庭園の樹木などが残っており、当時の面影を探し、時の流れを感じることができた。また、火災や天災、所有者の変化などにより庭園・建築は変化に直面し、そのような時にどのような方針・方法で手を入れるかが大切なのだと分かった。

半田沙奈絵

(植彌加藤造園株式会社 庭園修景部)



#### 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香、小椋菜美（植彌加藤造園株式会社）

#### 日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター一気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342